

連立方程式を解く過程で、

行の基本変形しかしてないから、

$x_1, x_2, x_3, x_4$  は同じ所にある (第1列, 2列, ...)

$$\begin{array}{l} p.46 \text{ 2.4} \\ \text{bis} \end{array} \quad \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 2 & 3 & 4 & 1 \\ 4 & 7 & 10 & 9 \\ 1 & 1 & 1 & -3 \end{pmatrix} \rightsquigarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 & -10 \\ 0 & 1 & 2 & 7 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

初頭項のない列は任意

$$x_3 = \alpha \quad (\text{任意})$$

$$x_4 = \beta \quad (\text{任意})$$

。 行列とベクトルの立場から考える。

i.e. 解ベクトル.

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 & -10 \\ 0 & 1 & 2 & 7 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \text{となるベクトル } \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} \text{ を求めよ。}$$

$$\Omega = \left\{ \begin{pmatrix} \alpha + 10\beta \\ -2\alpha - 7\beta \\ \alpha \\ \beta \end{pmatrix} \mid \alpha, \beta \text{ は} \right. \\ \left. \text{任意のスカラー} \right\}$$

これが連立方程式の解全体の集合。

解全体の集合はよい性質をみたく。

• よい性質

$$\left\{ \begin{array}{l} \bullet v, u \in \Omega^{(\neq 0)} \Rightarrow v+u \in \Omega^{(\neq 0)} \\ \bullet \lambda (\text{スカラー}), v \in \Omega \Rightarrow \lambda v \in \Omega \end{array} \right.$$

(これはベクトル空間 (線形空間) の性質)

$$\begin{pmatrix} \alpha + 10\beta \\ -2\alpha - 7\beta \\ \alpha \\ \beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha \\ -2\alpha \\ \alpha \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 10\beta \\ -7\beta \\ 0 \\ \beta \end{pmatrix}$$

$$= \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} 10 \\ -7 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

∴  $\Omega$  は次のような線形和で書ける。

$$\Omega = \left\{ \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} 10 \\ -7 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \mid \alpha, \beta \text{ 任意のスカラー} \right\}$$

# 基底とは？

ベクトル集合  $\{v_1, \dots, v_k\} \subseteq \Omega$  が、  
ベクトル空間  $\Omega$  の基底であるとは、

① 一次独立

②  $\Omega$  の元は全て  $v_1, \dots, v_k$  の線形和で書ける。

一意的に

斉次の連立方程式がある。



その解ベクトル全体の集合がある。



あるベクトルの集まり  $\{v_1, \dots, v_k\}$  の線形和で書ける。

ある解ベクトルが2通り表示があるとすると、

$$\begin{aligned} w &= \lambda_1 v_1 + \lambda_2 v_2 + \dots + \lambda_k v_k \\ \rightarrow w &= \mu_1 v_1 + \mu_2 v_2 + \dots + \mu_k v_k \end{aligned}$$

---

$$0 = (\lambda_1 - \mu_1)v_1 + (\lambda_2 - \mu_2)v_2 + \dots + (\lambda_k - \mu_k)v_k$$

$\{v_1, \dots, v_k\}$  が一次従属  $\Leftrightarrow (\lambda_i - \mu_i)$  のどれかは0ではない。

例えば、 $\lambda_1 - \mu_1 \neq 0$  なら、

$$v_1 = -\frac{1}{\lambda_1 - \mu_1} \left\{ (\lambda_2 - \mu_2)v_2 + \dots + (\lambda_k - \mu_k)v_k \right\}$$

数学類はベクトル空間

解(全体)空間  $\Omega$  は、

ある基底  $\{v_1, \dots, v_k\} \subseteq \Omega$  の線形和で書ける。

↓

$\{v_1+v_2, v_2, v_3, \dots, v_k\}$  も基底か？

①  $\Omega$  の元全てをこの線形和で書けるか？

→  $1 \cdot (v_1+v_2) - 1 \cdot v_2 = v_1$  が復元できるだろう

② 1次独立か？

$\lambda_1(v_1+v_2) + \lambda_2 v_2 + \dots + \lambda_k v_k = 0$  とする。

(目標:  $\lambda_1 = \lambda_2 = \dots = \lambda_k = 0$   
∴  $\{v_1+v_2, v_2, \dots, v_k\}$  は 1次独立。)

$\lambda_1 v_1 + (\lambda_1 + \lambda_2) v_2 + \dots + \lambda_k v_k = 0$

$\{v_1, \dots, v_k\}$  が 1次独立なので、

$\lambda_1 = \lambda_1 + \lambda_2 = \dots = \lambda_k = 0$

∴  $\lambda_1 = \lambda_2 = \dots = \lambda_k = 0$

(目標到達)

第1列に  
第2列を  
加えたのだと  
わかる？

o p.48 定理 2.6

基底が 2 つあったら、

~~$\{v_1, \dots, v_s\} \in \Omega$~~

基底という集合の元のベクトル1つ1つは基と呼ぶらしい。

$\{u_1, \dots, u_t\} \subseteq \Omega$

$s = t$  である (ベクトルの個数は同じである)。

証明

正しくないとする (背理法)。

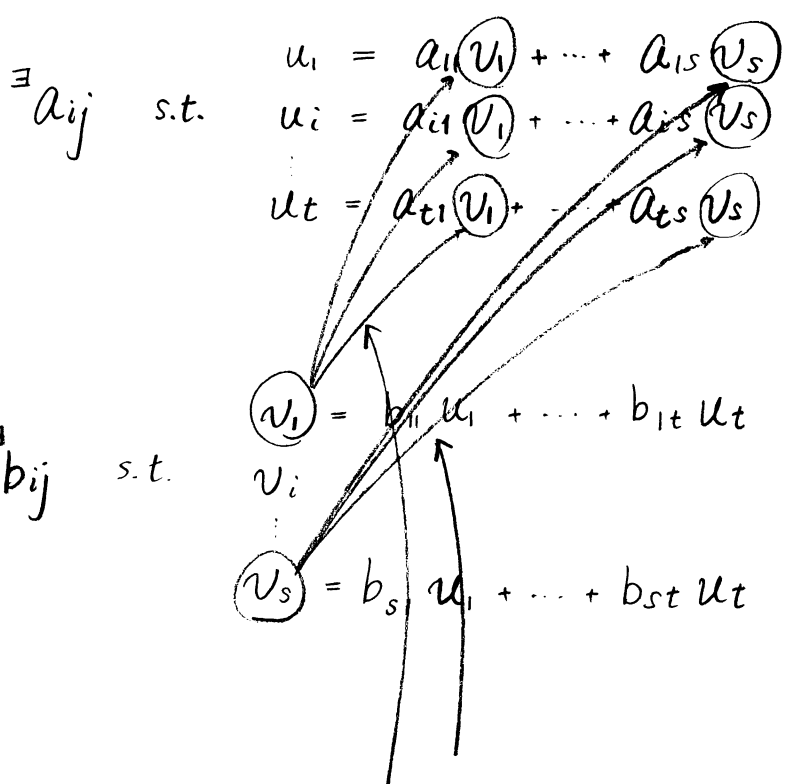
~~$s = t$~~  とする。

$s < t$  (どちらでもいいけど)

基底の性質を使う。(解集合)  $\Omega$  が <sup>元</sup>線形和で書ける。という性質。

$v_1, v_2, \dots, v_s \in \{u_1, \dots, u_t\}$  の線形和で書ける。

$u_1, u_2, \dots, u_t \in \{v_1, \dots, v_s\}$  "



イメージ

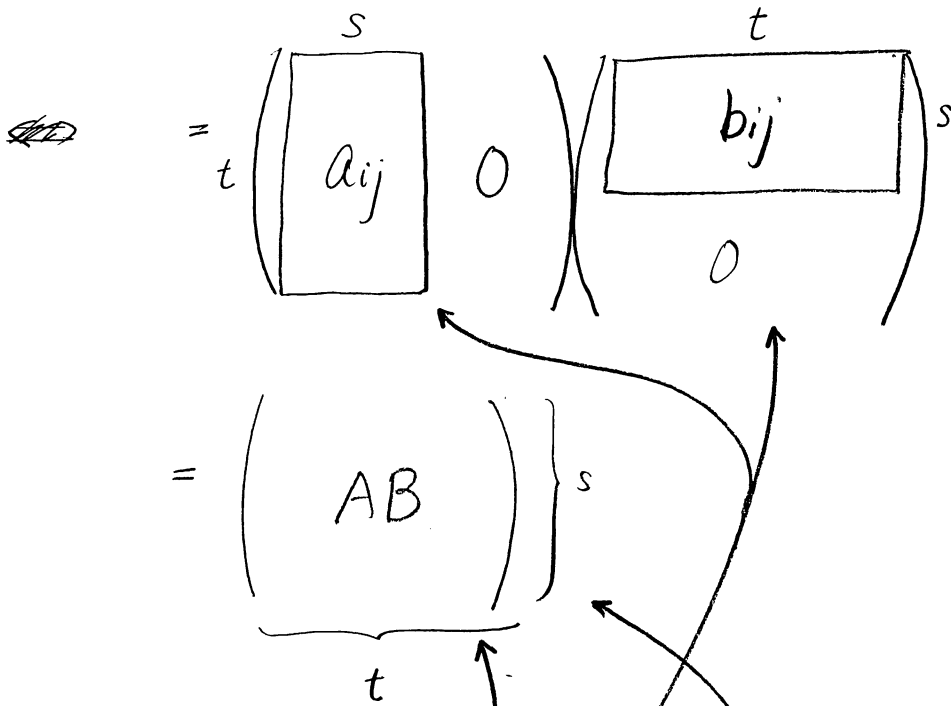
$$\begin{pmatrix} u_1 \\ \vdots \\ u_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{ij} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} v_1 \\ \vdots \\ v_s \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} v_1 \\ \vdots \\ v_s \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_{ij} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} u_1 \\ \vdots \\ u_t \end{pmatrix}$$

このように代入すると...

ここが成分のベクトルの行列はまた定義してない

$$\begin{pmatrix} u_1 \\ \vdots \\ u_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_{ij} \\ \text{t} \times \text{s 行列} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} b_{ij} \\ \text{s} \times \text{t 行列} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} u_1 \\ \vdots \\ u_t \end{pmatrix}$$



$\{u_1, \dots, u_t\}$  が  $\{u_1, \dots, u_t\}$  の線形和で表わされている。

$\{u_1, \dots, u_t\}$  は 1 次独立だから、これは単位行列に成るはず。

しかし、これは、全て 0 の行、全て 0 の列があるから、

いくつ基本変形しても単位行列には成らない。

よって矛盾。

仮定  $s \neq t$  がまちがっていた。